

## 財政通信 No.23

1年間のご無沙汰でした。久々の財政課長です。

今年上半期を振り返ると、4月には大幅な組織改正がありましたね。財政課でも管財グループが新設された資産管理課に移った関係で、現在は6人体制。ちょっとさびしい感じですが、みんな「こびっとしろし」と声を掛け合いながら頑張っています。

最近、NHKの朝の連ドラをよく見るようになりました。去年は「あまちゃん」が大ブレイク。能年玲奈ちゃんが人気急上昇。ただ私ら「おじさん」の年代では、天野春子役の小泉今日子さんや、鈴鹿ひろ美役の薬師丸ひろ子さんの方が、ノスタルジックでチャーミングな感じがします。

今年は「花子とアン」。花子と蓮子の生い立ちのコントラストと共に、女同士の友情がドラマをいい感じに盛り上げています。仲間由紀恵さんの蓮子役は絶品。主役の吉高由里子さんが色褪せて霞んでしまうほどの美しさ。題名「蓮子と花子」でもよかったような。

それと映画では「アナと雪の女王」が大ブレイク。これもテーマは姉妹の愛。ふたつのドラマに共通するのは「〇〇と〇〇」という表現。しかも両方とも女性が入っていること。「少子高齢化・人口減少社会の到来でますます重要になってくるのが女性の存在」だと、どこかの経済評論家が言っていたなあ～。今後ますます女性の時代到来の予感が。もっとも我が家では、ずっと前から女性の時代ですが。。。。。

また「アナ・雪」では、松たかこさんの主題歌もよかったですね。「ありのままの姿みせるのよ～。ありのままの自分でいいの。♪」やっぱり自然体がいいですね。

ということで本題にはいっていきます。龍ヶ崎市の平成25年度決算のありのままの姿を観ていきましょう。

### §1 平成25年度決算状況

(決算統計調査が進んだある日)

G員：係長、収支状況がまとまりました。

係長：今年の形式収支（歳入歳出差引額）はどのくらいになったかな？

G員：今年もいい感じですよ。13億2千万円の黒字で、昨年が11億5千万円ですから1億7千万円の増額ですね。

係長：平成23年度決算から3年連続で10円億を超える黒字となっているのは良好な決

算と言える。歳入状況はどうだったかな？

G員：歳入決算額は総額で262億3千万円です。地方税は前年より1億4千万円の増額となっています。景気対策としてのアベノミクス効果ですかね。一方、地方交付税は2億1千万円の減額です。事業費補正分として算入される清掃工場施設の起債償還負担金が大幅減になったことが主な要因と思われます。

国庫支出金は、国の景気対策で補助事業が増えていますね。小中学校のエアコン整備補助など9億6千万円の増額となっています。

諸収入では、清掃工場施設整備負担金精算金などで8億9千万円の増額となっています。

係長：歳入全体としては、前年比で25億4千万円と大幅な伸びとなっているね。歳出の状況はどうだろうか？

G員：歳出総額は249億円で、こちらも前年比で23億6千万円と大幅な伸びとなっています。医療費や生活保護費などの社会保障関係費は年々伸びており、民生費全体では3億5千万円の増額。また歳入でも触れましたが、小中学校のエアコン整備などで教育費全体では7億7千万円の伸びとなっています。

係長：城西中学校の大規模改修事業などもあったからね。

補佐：形式収支は大幅黒字か。実質収支（形式収支一翌年度に繰り越すべき財源）はどうだろうか？

係長：実質収支では12億7千万円の黒字です。

補佐：単年度収支（H25実質収支－H24実質収支）では？

係長：こちらも1億8千万円の黒字です。実質単年度収支でも6億8千万円の黒字となっています。

補佐：収支状況はここ数年、良好な状態が続いていますね、課長。今年は財政調整基金に5億円を積み増すことが出来たし、一般財源基金残高も当面の目標だった30億を超え、34億円を確保できました。

課長：そうだね。形式収支・実質収支とも3年連続で10億円を超える黒字確保とは有り難い限りだ。財源に余裕ができたところで将来に備え、基金に積み立てておくことは家計でも市の財政でも大事だね。それと平成25年度決算は、国の景気対策などで建設事業が増えて歳入歳出とも大幅な増額決算となったわけだけど、職員の給与削減にも取り組んで、浮いた財源を防災・減災事業などの事業費に回したりしたこともあったね。市民はもちろんだけど「給与は下がるが、仕事は増える」状況のなか、各職場の職員の協力が財政を支えてくれていることにも感謝しなくちゃいけないね。

補佐：今後の財政運営を考えると、清掃工場施設の長寿命化事業や、国や他の自治体でも話題になっている公共施設の再編問題にも対応していかなければならないし、平成25年度決算では市税収入が100億円を超えたけど、消費税率が10%に引き上げられれば景気が落ち込んで減収に転じる不安もありますね。

課長：そうだね。ここ数年、収支状況は良好だけど、今後のことを考えると喜んでばかりもいられない。財政の健全化への取組は今後も継続していかなければならないし、並行して新たな市民ニーズにも対応しなければならない。

地方交付税や臨時財政対策債は「実質的な交付税」と呼ばれ制度的に認められた財源だけど、依存財源として国の政策で減らされることもある。安定した財政運営を行っていくには、市税や使用料・手数料などの自主財源の比率を高めていく必要があるだろう。

補佐：そうですね。「アナ・雪」の歌でいえば「何も怖くない。風よ、吹けー。・・・少しも寒くないわ。」的なたくましい財政体質になるよう頑張っていきましょう。

課長：うーむ。雰囲気はそういうことだな。でも今日は少しも寒くないけど、かなり暑いから早く冷房入れようよ。

補佐：今日は我慢しましょう。「心頭滅却すれば火もまた涼し。」ですから。早速節約に努めないと。

課長：冷たいな～。雪の女王がここにもいたか。

## § 2 健全化判断比率

(健全化判断比率算定作業が進んだ7月のある日)

健全化判断比率は「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（通称：財政健全化法）」に基づいて毎年、算出しているものです。実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率を健全化4指標と呼んでいます。

平成25年度の指標はいかに・・・・・・。

G員：係長、指標算出作業が終わりました。

係長：ごくろうさん。決算統計に続いての作業で大変だったと思うけど、4指標の状況はどうだったかな？

G員：まず、実質赤字比率、連結実質赤字比率とも当然のことながら昨年同様算出されませんでした。もっともこの指標が算出された時点で、市の財政運営基本指針等条例では早期警戒基準に該当することになりますからね。

係長：実質公債費比率はどうか？

G員：実質公債費比率は9.6%で前年より0.7ポイントの減少です。

係長：実質公債費比率では、臨時財政対策債が増額になったことで分母の標準財政規模が増加したことや、分子の一部に含まれる清掃工場施設の起債償還負担金が大きく減少したことが要因だろうね。将来負担比率はどうだろうか？

G員：将来負担比率は、13.8%で前年より20.3ポイントと大きく減少しています。

係長：減少の要因は、まず、実質公債費比率と同様に分母である標準財政規模が増加したことがあるかな。それと分子では清掃工場施設の起債償還負担金の大幅な減少と、将来負担額から控除する充当可能財源として、塵芥処理組合からの清掃工場施設整備負担金精算金を基金に積み立てたことが要因になっているようだね。

地方債残高が年々減少する一方で、基金残高は増加している。中期財政計画を着実に実行しながら、持続可能な財政構造の構築に努めていこう。

今回もお付き合い頂き、ありがとうございました。詳しい内容はホームページの財政課提供情報の「平成25年度龍ヶ崎市決算の状況」や、「平成25年度決算にかかる龍ヶ崎市の健全化比率等について」をご覧ください。なお、財政用語は解り難いと思いますので、「財政用語の解説」も併せてご覧ください。

これからも、職員のみなさんの財政に対するご理解とご協力をお願い致します。

それでは、ごきげんよう さようなら・・・・・・・・。